

令和元年度学校経営計画に対する中間評価

石川県立内灘高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月結果	アンケート結果からの分析と課題
1	生徒一人ひとりの実態把握を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	【成果指標】 授業の挨拶等ができた生徒の割合	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	(73)% (C) 判定	昨年と比べて大きな変化はない。教員や保護者の指導声掛けに対して、生徒の肯定的意見の割合が低い。クラスや授業で、再確認・徹底する。
		② 無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	生徒課各担任	【成果指標】 年間10回以上遅刻する生徒の数を昨年度の23名より半減する。	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 12名未満 B 12名～17名 C 18名～23名 D 24名以上		年度末に評価
		③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	保健相談課全教職員	【成果指標】 個別支援計画の案を1学期末までに完成し、保護者懇談で保護者と確認しあう。	個別支援計画の案の作成が1学期末までに完成できたクラスが A 90パーセント以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満		年度末に評価
		④ 人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	生徒課相談課全教職員	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%～94% C 85%～89% D 85%未満	(76)% (D) 判定	昨年までは教員に対する質問項目であったが、今年から生徒がどのように感じているかを重視した。昨年との比較データはないが、肯定的な意見が76%にとどまった。いじめアンケートなどを行い、要望、早期発見、早期対応に努めたい。
		⑤ 自転車乗車マナーの向上を通じて、規律を尊重する態度を養う。	生徒課各学年	【成果指標】 県警による交通違反指導件数を昨年度の17件より半減する。	年間交通違反指導件数が A 9件未満 B 9件～10件 C 11件～12件 D 13件以上		年度末に評価
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
2	生徒の基礎学力定着に向けたICTの効果的活用法やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業法などを学年や教科で共有し、効率的な授業力向上を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課各教科	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	(85)% (B) 判定	教員の肯定的な解答に対して、生徒の肯定的な解答が若干少ない。研究授業や公開授業などを通して、学校全体で授業改善に取り組みたい
		② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	教務課各教科	【成果指標】 教員同士が意欲的に授業を参観し、参観後は授業者の授業改善の基になる授業参観シートを提出	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満		現在までの平均が5回で今後目標は達成できるであろうと思われる。
		③	教務課各教科各学年	【成果指標】 全ての教員がICTの活用や協働活動の導入、双方向型の授業などを実施し、教科会で報告し授業改善に活かす。	ICTの活用や協働活動、双方向型授業などを取り入れて工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	(88)% (A) 判定	非常に多くの教員がICT等を活用して授業を行っている。引き続き教科会や研究協議会等で効果的な活用について共有したい。
		④ ワークライフバランスやタイムマネジメントの意識を常に忘れず、授業や分掌の業務を効率的かつ効果的に遂行する。	教頭	【成果指標】 ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識して業務に取り組み、時間外勤務を縮減する。	ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識して業務に取り組み、時間外勤務を縮減できたという肯定的評価が A 95%以上 B 85%～94% C 75%～84% D 75%未満	(76)% (C) 判定	実際の超過勤務時間は昨年度に比較して一人月平均250分ほど減少しており、一定の成果は上がっていると考えられる。今後より一層業務の効率化に取り組んでいく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	アンケート結果からの分析と課題
3 最新の進路情報の提供や同窓会との積極的連携により、社会人としての心構えを学び、早期から進路意識の高揚を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路課 各学年	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	(75)% (B)判定	昨年と比べて大きな変化はない。学年別で見ると、現在の2年生の肯定的な評価が高い。様々な進路行事や社会人講話、地域交流などを活用して早期から進路意識の向上につなげたい。
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 2月末現在の就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満		年度末に評価
	③ 最新の進路情報を提供し、適性に合った進路実現につなげる。	進路課 各学年	【成果指標】 2月末現在の進学決定率	進学希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満		年度末に評価
学校関係者評価委員会の評価						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法						
4 地域から信頼され、必要される学校となるために、地域行事に積極的に参画し、地域防災にも貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	【成果指標】 来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数及びPTA総会の来校者数	来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数が A 700名以上 B 650名～699名 C 600名～649名 D 599名未満 PTA総会の来校者数が A 50名以上 B 40名～49名 C 30名～39名 D 30名未満		年度末に評価
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動・防災活動を企画・実践する。	生徒課 各部顧問 総務課	【努力指標】 地域に出向いて連携した活動の回数及び参加した生徒の延べ人数	地域に出向いて連携した活動の回数が A 30回以上 B 25回～29回 C 20回～24回 D 20回未満 参加生徒の延べ人数が A 1000名以上 B 900名～999名 C 800名～899名 D 800名未満		年度末に評価
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	教務課 総務課	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ人数 地域の中学校との交流企画の回数	中学生の参加者数が A 750名以上 B 700名～749名 C 650名～699名 D 649名未満 地域の中学校との交流の回数が A 10回以上 B 8回～9回 C 6回～7回 D 6回未満		年度末に評価
学校関係者評価委員会の評価						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法						